

さひめやま

佐毘賣山神社修復事業の趣旨並びに御報賛のお願い

謹啓、佐毘賣山神社は、遠く室町時代に石見銀山が発見されて以来、鉱山の繁栄と安全を願い、銀山地区のみならず、石見銀山に縁の方々にとってその心の拠り所として「山神さん」の愛称で呼ばれ親しまれてきました。

振り返りますれば、昭和四十四年に国史跡「石見銀山遺跡」に指定されて以来の中心的な遺構として、また平成十九年七月二日に石見銀山遺跡がユネスコの世界遺産に登録された際には重要な役割を担う神社として高く評価されたところでございます。

現存する社殿は、江戸末期の大火後に再建されて以来、地元の方々の奉仕活動と鉱山関係者、出身者など多くの力によって運営されてまいりました。

殊にその社殿は、鉱山の山神社としては国内最大級でもあり、また世界遺産を象徴する建造物の一つとしてその価値は極めて高いものがあります。

しかしながら、かく由緒と価値のある当社も幾星霜時代を経て、鉱山がその歴史を終えて百年近くなり、神社全般に亘って老朽化が著しく、大戦後にも大小三回、多くの浄財を得て修理を重ねてまいりましたが、なお幣殿を中心とする建物中央部が腐蝕し、また境内の諸施設も痛みがひどく改修が急がれます。



幸いなことに国史跡であり、かつ世界遺産の構成資産でもあるところから一昨年来、大田市教育委員会、日本伝統建築技術保存会の協力を得つつ、資金や修理技術に関する協議、種々の広報活動に地道に努め、ようやくその改修方策につきまして大筋が見えて参りました。

改修につきましては、御承知の通りまず神社氏が力を合わせてとなるのが本旨ではございますが、鉱山としての歴史を終えた今、佐毘賣山神社の氏子は大田市大森町の僅か二十余戸であり、また（多くの社寺を抱えている大森町など）地縁によります御支援にも自ずから限りがございます。

昨今の厳しい経済状況下に、皆様に御寄附をお願い申し上げることは誠に恐縮でございますが、佐毘賣山神社の価値と遺産や文化財の保存に御理解頂いている多くの方々の熱意と御浄財を糧として、石見銀山基金等の公的資金調達を確保しつつ一日も早く社殿の修復なる日を願い、皆様方に格別の御懇志御浄財を賜りたく書面をもってお願い申し上げます。

記

一、工 期

平成二十七年春～平成二十九年春（予定）

二、奉賛目標総額（公的助成金除く）

一 金壹千万円以上

三、御奉賛のお申し込み方法

次のイ、ロ、ハいずれかの方法で御納入下さい。

御奉賛のうちは、御殿内に御芳名を記し、大神様に御報告いたしますとともに、神社内のしかるべき場所にその御厚志を揚げ、永く御顕彰申し上げます。

又諸祭儀行事に御案内申し上げます。



イ 郵便振込の場合、次の口座へお納め下さいませ。

《口座記号番号》15320-8946791

《口座名称》佐毘賣山神社

ロ 他の金融機関から郵便振込の場合、次の口座へお納め下さいませ。

《振込銀行》株式会社 ゆうちょ銀行

《店名・店番》五三八・538

《口座番号》(曾) 0894679

《口座名称》佐毘賣山神社

ハ お振込の場合、次の口座へお振込下さいませ。

《振込銀行》石見銀山農業協同組合 高山支所

《店 番》7717-021

《口座番号》(曾) 0007582

《口座名称》佐毘賣山神社 遷宮特別会計

代表総代 野津英夫

【お問い合わせ・連絡先】

・高橋 伊 武 島根県江津市都野津町

(0855) 53-3118

・野津 英 夫 島根県大田市大森町ホー

(0854) 89-0143

佐毘賣山神社

宮司 代表役員

佐毘賣山神社

責任役員

世 話 人

高橋 伊 武

野津 英 夫

石川 重 夫

川 野 重 夫

石 賀 敏 夫

内 田 敏 夫

石 賀 敏 夫

内 田 敏 夫

石 賀 敏 夫

中 原 宏 夫

中 原 宏 夫

渡 辺 宏 夫

渡 辺 宏 夫

仲 野 清 夫

仲 野 清 夫

本 城 高 夫

本 城 高 夫

中 島 康 夫

中 島 康 夫

野 津 英 夫

野 津 英 夫

上 野 治 子

上 野 治 子

平成二十六年十一月吉日

関係者各位